



さわやか



エビデンスベスト！？よい学級集団に高めた根拠は？

今年度の「教育力のある学級集団づくり」の成果は何でしょう？
一つは、QUTテストやアンケート等の数値の高さです。どの学年も、満足群に位置する子どもの割合が高くなっています。実際の姿も、この数値に表れていると思います。お互いを認め合う、きまりを守る態度は高いです。明るくしっとりした学級風土です。

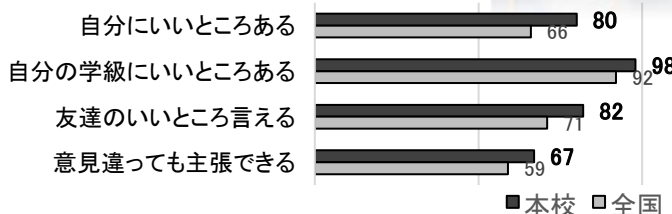
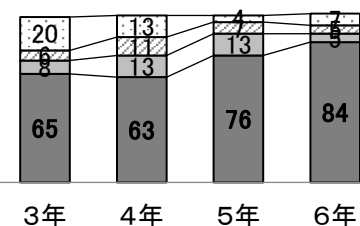
成果として、もう一つ明らかにしなければならないことがあります。それは、「何が」このような子ども・学級に高めたのか？ということです。向上的変容に導いたのは、どんな指導か、手立か、その根拠（エビデンス）明らかにすることが大切です。



学級への凝集性、一体感を高める

QUでみる学級集団の様相

- 不満足群
- 侵害行為認知群
- 非承認群
- 満足群



上のグラフは、「福島県学力調査」児童生徒質問紙調査からの抜粋です。全国と比べ、どの項目も高くなっています。それは、特別な指導をしたからだと考えます。自分の学級のいいところを、ほぼ全員が言えるようにした指導は何なのでしょくか？

子どもの自治的な活動！？子育ての文化を高めているもの

今年一年、集団の中でよい子が育つ条件は何なのかを探ってきました。その答えは、「規律」「子育ての文化（学び合い高め合いの態度）」であるとの結論に達しています。

では、この二つを育てている教育活動とは何かを考えたとき、児童会活動がその一つなのではないかと考えました。

児童会各委員は、下の写真のように、塩川小の諸問題を解決する活動を行っています。解決するため、自分の言葉や行動で活動することにより、自覚と学びが高まります。その積み重ねで先の二つの力を自ら育てています。それを見てきた下級生も、行動の指針が持て、自発的に取り組めるようになります。

我々が行っている教育活動には、それぞれに「意味」があります。子どもの何を育みたいのか、「目的・ねらい」があります。児童会活動は、「望ましい集団活動（児童会活動）を通して、望ましい人間関係と自主的・実践的な態度を育てる」ことであることを再認識することが大切です。逆に、子ども達がしている活動は、下線部の資質・能力を育てるのにふさわしい活動なのかとという視点で見てもみることも大切です。



学級訪問し、午後8時の塩川ルールを守るよう訴える



給食残菜量を測る



校舎を歩いてお願いする



けがをしないよう玄関の雪はきをする